

【連載】※月1連載 船釣りの作法

釣技
食

昼過ぎから沖揚げりにかけて大型が連続して掛かってきた

其の十四 東京湾のタチウオ

※回数は動画シリーズに連動

テンヤ&テンビンでアタリの出方が変わる一工夫



▲テンビン仕掛けはコノシロエサ ▲テンヤは40号と50号

夏以降ドラゴン級が頻繁に顔を出すようになった東京湾のタチウオ釣り。走水し猿島沖には連日船団ができ、船上は人気のテンヤ、安定のテンビン仕掛けで賑わっている。
二天釣法と呼べるテンヤとテンビンは、どちらか専門で釣る船と、両方持ちし途中で交換可能な船がある。

この日、松本圭一さんは船長の了解を得て朝方はテンビン、その後はテンヤに交換の予定。サーベルマスターT73、M190とフォースマスター200の組み合わせを手に、まずは港の目の前、水深60メートルでスタート。

テンヤが苦戦した冬〜夏までの間、東京湾ではテンビン仕掛けが活躍、その釣り方は進化しており、最近ではシヤクリの後の「止め」において、一瞬のフォールを演出するのがトレンドだ。

海底から10メートルほど上に濃密な反応。この間アタリは途切れなかった

○松本圭一 淡水・海水を問わない無類の釣り好き。中でも船釣りには幅広く精通し、小型から大型魚まで様々なターゲットを追いかける。

